



## 拒絶理由通知書

Office Action  
from JPO

特許出願の番号	特願 2004-077821
起案日	平成17年 9月26日
特許庁審査官	山中 実 3360 5W00
特許出願人代理人	三好 秀和 様
適用条文	第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から3か月以内に意見書を提出して下さい。

## 理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

【請求項1-4】

引用文献等: 1

引用文献1の図1に記載された「UHFのテレビジョン信号」、「VHFハイバンドのテレビジョン信号」、「第一のプリアンプ6」、「第二のプリアンプ7」、「局部発振器19」、「第一のプログラマブルデバイダー16」、「第一の混合器9」は、それぞれ本願発明の「第1帯域RF信号」、「第2帯域RF信号」、「第1増幅部」、「第2増幅部」、「電圧制御発振器」、「ディバイダー」、「ミキサー」に対応する。

また、引用文献1の段落【0028】、【0029】、【0034】には、PLL集積回路の出力によって、UHFのテレビジョン信号に対しては第1のプリアンプを駆動して局部発振器の出力を第1の混合器に直接入力し、VHFハイバンドのテレビジョン信号に対しては第2のプリアンプを駆動して局部発振器の出力を第1のプログラマブルデバイダーを通して分周してから第1の混合器に入力する旨が記載されている。

したがって、請求項1-4に係る発明は、引用文献1に基づいて当業者が容易に成し得たことである。処理期日は1日早く設定してあります。処理期日 18年 1月 3日

## 【請求項5－8】

引用文献等：1

上記請求項1－4についてした検討に加えて、引用文献1の図2に記載された「UHFのテレビジョン信号」、「VHFハイバンドのテレビジョン信号」、「第一のプリアンプ6」、「第一のイメージトラップ26」、「局部発振器19」、「第二の混合器9」、「第二のプリアンプ7」、「第二のイメージトラップ27」、「第二のプログラマブルデバイダー16」、「第三の混合器11」、「フィルタ13」は、それぞれ本願発明の「第1帯域RF信号」、「第2帯域RF信号」、「第1増幅部」、「第1フィルター」、「電圧制御発振器」、「第1ミキサー」、「第2増幅部」、「第2フィルター」、「ディバイダー」、「第2ミキサー」、「第3のフィルター」に対応する。

したがって、請求項5－8に係る発明は、引用文献1に基づいて当業者が容易に成し得たことである。

拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

## 引用文献等一覧

## 1.特開2000-118795号公報

なお、補正をする際には、下記文献を参考されたい。

・特開2002-368642号公報

(特に段落【0107】－【0109】、図16を参照されたい。スイッチを用いてミキサを共用化することが開示されている。)

・特開平09-172385号公報

(特に段落【0042】、【0046】－【0048】、図1を参照されたい。スイッチを用いてミキサを共用化することが開示されている。)

・特開2002-300053号公報

(特に段落【0020】－【0023】、図1を参照されたい。DAB用受信機が開示されている。)

-----  
先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野      I P C 第 7 版      H 0 4 B      1 / 2 6

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。  
-----

整理番号:CHP0408 発送番号:361423 発送日:平成17年10月 4日 3/E

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第四部 伝送システム 原田聖子

TEL. 03 (3581) 1101 内線3535

FAX. 03 (3501) 0699